

幌延町地域振興(観光)計画 今年度の取組みについて

平成30年1月25日(木)
幌延町・拠点づくり勉強会検討ワークショップ

幌延町地域振興(観光)計画について

平成28年度に「幌延町地域振興(観光)計画」を策定。主な内容は、以下の通り。

目指す姿

メイン

「楽しい・美味しい・美しい」に出逢えるまち
HORONOBE/ほろのべ

サブテーマ

～北緯45°のゲートウェイ
【関所】を目指して～

基本理念

- ①観光振興を通じてまちが“潤い・元気”になる
- ②幌延にしかない貴重な体験・経験を提供し、“幌延ファン”を増やす
- ③立地を活かし、宗谷地域を訪れる観光客の“交流点”となる
- ④エネルギーを生産・研究するまちとして、“観光・環境・学術の共存”を目指す
- ⑤“町民みんなが活躍”することで、人口減少に負けない観光まちおこしを実現する

基本戦略

戦略1. 既存観光施設の魅力向上

戦略2. 雄大な自然資源の活用

戦略3. 幌延らしい新しい観光の創出

戦略4. 幌延らしい滞在メニューの開発

戦略5. 地域特産品の開発

戦略6. 冬の賑わい創出

戦略7. 情報発信の強化

戦略8. 幌延町と宗谷地域における交流・交通の要処となる拠点の整備

幌延町地域振興(観光)計画について

計画の策定にあたっては、『幌延町まち・ひと・しごと創生会議「幌延町地域振興(観光)計画」検討会』を設置し、内容検討等や観光資源調査を実施。また、検討ワークショップの開催、さらに各種アンケート調査、小・中・高校生を対象とした観光アイデアコンテストを実施。

本計画策定に関わる調査・検討

項目	概要
幌延町地域振興(観光)計画」検討会	観光関係者や公募の他、産官学金労言議による検討会を開催
検討ワークショップ	特産品開発や拠点づくり、まちづくりの3つのテーマで検討
観光資源調査	夏期・秋期・冬期の観光資源について関係者や町民等と調査
おいでよ!ほろのベ アイデアコンテスト 幌延町総合計画及び幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標	幌延町に住む小学生、中学生、高校生を対象にアイデア募集

記載計画		指標	平成24年度 実績	平成31年度 目標
総合 計画	総合 戦略			
		観光資源に恵まれたまちと 思う人の割合	13.1%	18%
●	まちづくり講演会	地域活性化と観光に関する講演会を開催		

幌延町地域振興(観光)計画

「楽しい・美味しい・美しい」に出逢えるまち
HORONOBE/ほろのべ
 ～北緯 45° のゲートウェイ【関所】を目指して～



平成29年3月

平成29年度の取組みについて

(1) 関連事業者からの意見聴取

商工会、飲食店、旅館等町内の観光関連事業者から、現状・将来展望等について聴き取りする。
※平成29年6月12日～13日に15団体にヒアリングを実施。

(2) 検討委員会、ワークショップ及び庁内協議の開催

アクションプランの内容検討及び「観光コンテンツ開発」、「特産品開発」、「拠点整備」のテーマについて協議・検討する。※資料及び会議録作成、運営補助

- ①検討委員会【5回】
- ②検討ワークショップ【2回】

(3) 計画の推進に向けた試行調査等の実施

計画の推進方策等について検討するため、試行調査を実施する。

- ①町内ボランティアによる施設の環境整備（トナカイ観光牧場ノースガーデン等）
- ②体験コンテンツ開発（遊び体験：カヌー・自転車・釣り等）
- ③地元食材等を使用した料理の試食会（生乳・トナカイ・合鴨等）

(4) 講演会の開催

幌延町における観光のあり方を町民とともに学び、共有するため、観光振興に関連する講演会を1回開催する。

(5) アクションプランの策定

上記（1）～（4）での結果を踏まえ、行動計画を策定する。併せて頒布用の概要版を策定する。

観光関連事業者・団体ヒアリング結果【概要】

平成29年6月12日（月）～13日（火）の2日間で、観光に関係する事業者や団体にヒアリング調査を行った。ヒアリングは13の事業者・団体を対象に実施し、観光旅行者や利用者の状況や地域振興（観光）計画に対するご意見、現状の課題、今後の取り組みたいことなどについて聞き取りを行った。拠点づくりに関係する意見を以下にまとめる。

1	企業等	・天塩と稚内の間で道の駅を作っても利用者は見込めるのかという疑問はある。
2	宿泊関係	・ゲートウェイという言葉の使い方について意見を申ししたが、聞きいれられずそのまま活用された。その理由については説明が欲しかった。
3	企業等	・純粋な民間企業ではペイできない事業も計画の中にはあるだろう。儲からない仕組みならないものは、やるべきではない。
4	企業等	・道の駅については、農家さんは自らの生産物を消費者に届けるきっかけの場所になる。道の駅が出来たとしても、商工業が力をつけないと町に魅力が出来ない。町に人が来ない。
5	企業等	・幌延町の観光振興に資する施策を打ってほしい。ただ、他の地域と違うものを。まず、幌延がどこにあるのか分かってもらっていない。 ・旅行雑誌や道北団体旅行の立寄り先として提案してはどうか。
6	企業等	・トナカイ観光牧場をオートキャンプ場にするのはどうか？アトラクションなども作る。上勇知にある自然体験学校のようなもの。 ・コテージなどを作ったりするのも良いが、宿泊は豊富に任せてもいいのではないかと？幌延には温泉はない。
7	宿泊関係	・長期滞在者に休日の過ごし方を提供する。
8	観光関係	・今来ている旅行者も町に来ることが無い。道の駅の構想にも重要であるが、町への導線をつくる。町に人を呼ぶためにも、食や特産品開発が必要。

「拠点づくり」に関する ワークショップについて

1. まちの拠点に関する計画

拠点のアイデアについて検討

平成28年度に3回のワークショップを開催

まちの拠点というテーマで、検討ワークショップを開催し、幌延町地域振興（観光）計画を策定。以下を計画として定めた。



戦略8. 幌延町と宗谷地域における交通・交流の要処となる拠点の整備

幌延町は宗谷管内の南西部に位置し、天塩大橋の架け替えやバイパスの道路整備等により、現状よりさらに宗谷を訪れる人が行き交う場所となることが想定されます。このような立地特性を活かし、宗谷地域を訪れる国内外観光客等の交通・交流における要処となることを目指します。

戦略8-1 町民や多様な旅行者が集う拠点

旅行者の「拠点」となり、さらに「まちの顔」となるためには、旅行者だけではなく、町民の利用も重要です。町民も集い、旅行者と町民、町民同士の交流の場となる拠点づくりを進めます。

戦略8-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点

観光における経済効果を広くまちに波及させるためにも、「まちの顔」となる拠点においては、幌延町を広く紹介するインフォメーション機能の他、地域の特産品を紹介・販売し、まちのブランドを高め、まちの活性化に繋がる拠点を目指します。

戦略8-3 道や川など多様な移動手段の拠点

天塩大橋やバイパスの整備を踏まえ、幌延市街地や宗谷地域へと繋ぐ要処となる「道」と「川」を活用した複合的な拠点づくりを目指します。また、整備にあたっては防災拠点としての機能についても検討する他、近隣市町村はもちろんシーニックバイウェイなどを活用した広域連携についても模索します。

2. 検討ワークショップの目的



拠点のアイデアについて検討

平成28年度に3回のワークショップを開催

まちの拠点というテーマで、検討ワークショップを開催し、幌延町地域振興（観光）計画を策定し、拠点の大きな方向性を示した。

本日

整備に向けて具体的な姿を検討

平成30年1月25日（木）

地域振興（観光）計画に基づき、拠点（道の駅構想）の整備に向け、具体的なあるべき姿を、町民を含め広く検討するため、ワークショップを開催。

<目的>

地域振興（観光）計画や求められる機能（案）に基づき、拠点が担うべき機能や役割に必要な姿を考える。

- ①町民や多様な旅行者が集う拠点
- ②地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点
- ③道や川など多様な移動手段の拠点

アクションプランに反映

各種取り組みや調査、検討ワークショップの結果を踏まえ、「幌延町地域振興（観光）計画アクションプラン」を策定する。



幌延町の拠点構想について

1. 目的

国道40号を利用するドライバーへ休憩を提供するとともに、幌延町・宗谷地域のゲートウェイ機能、吹雪等の悪天候時における一時避難個所などの防災機能等、多様な機能を有する拠点

2. 検討における留意点

- ・ 設置位置について検討する
- ・ ハード（施設自体）検討と共に、ソフト（運営方法・主体）について検討する
- ・ 拠点機能とともに拠点における「コンテンツ」を検討する
- ・ 地域の利害関係者や議会等との合意形成を図る

3. スケジュール想定

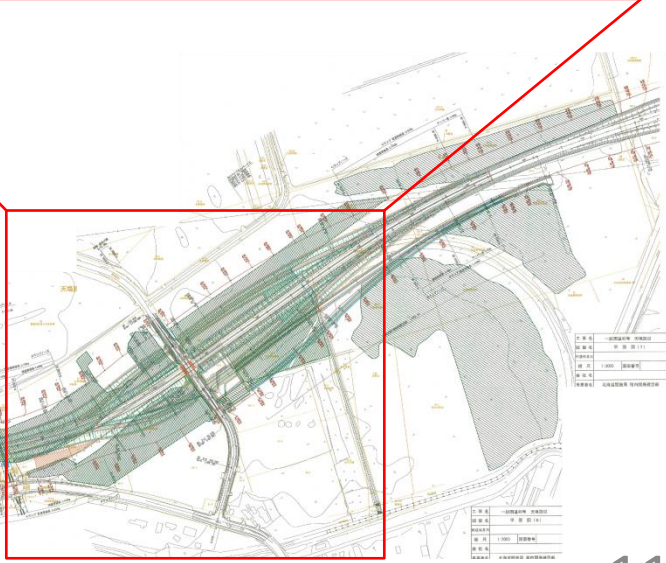
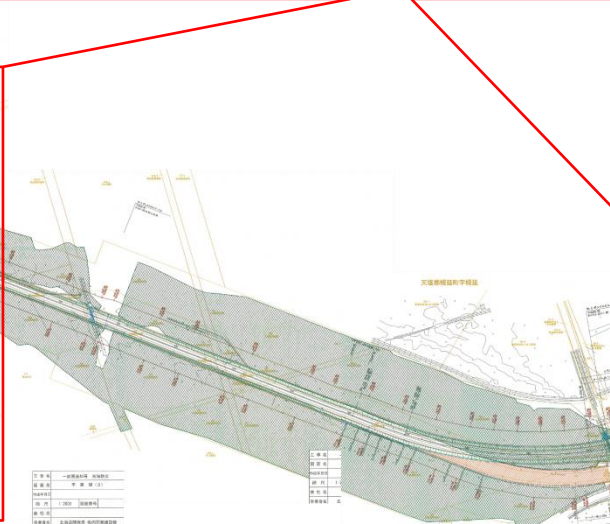
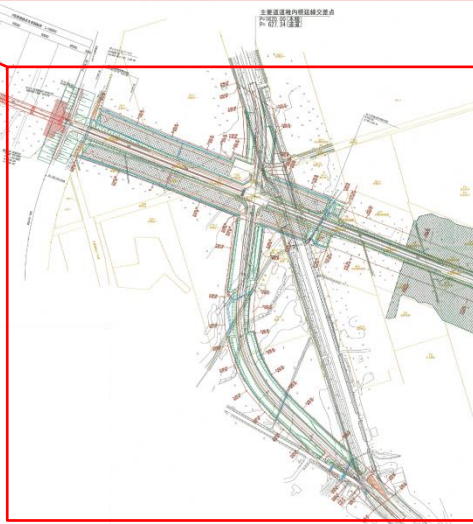
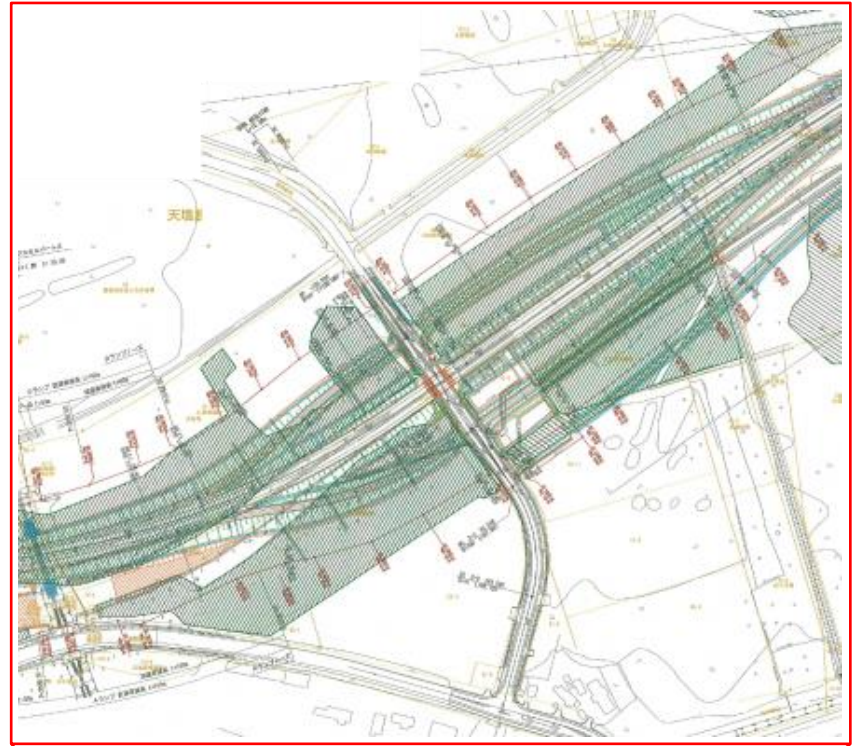
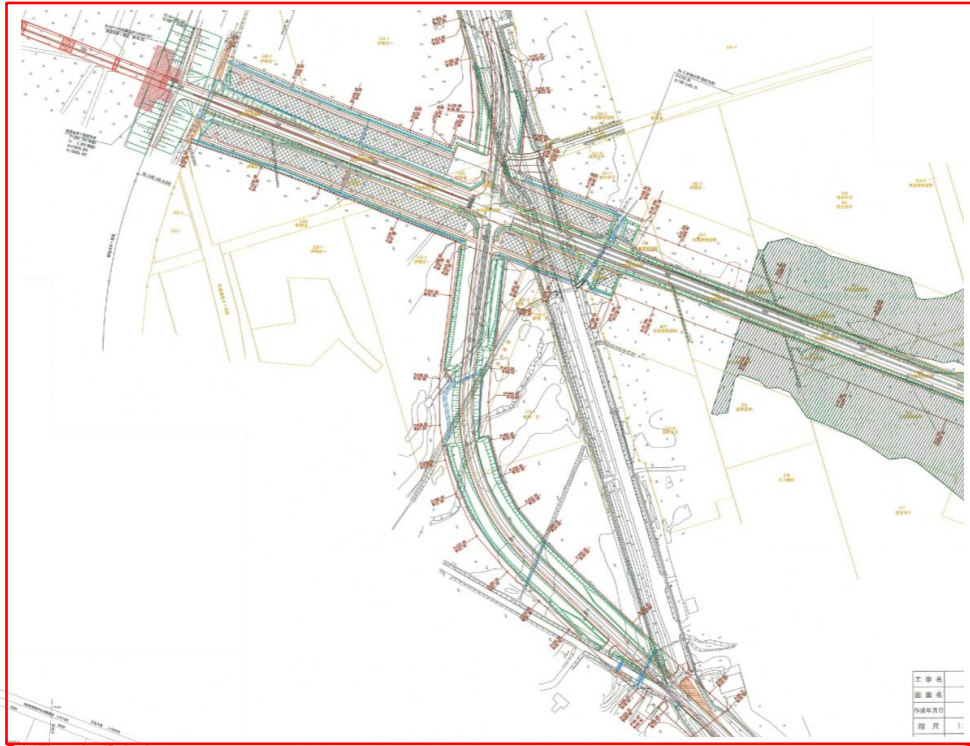
年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
拠点整備の進捗	・ 拠点構想の検討	・ 基本計画 ・ 実施設計	・ 実施設計 ・ 工事	・ 工事 ・ 開館
4. 拠点構想における検討・整理事項 その他 ・ トナリ観光牧場との住み分け ・ 既存観光施設や拠点とのネットワーク化 ・ 自動車、カヌー、自転車など多様な人が集まる場所 ・ 防災拠点としての機能			・ まちなかへの誘導・導線つくり ・ 宗谷地域のゲートウェイ機能 ・ 町民も利用する場所	・ 天塩木橋開通（時期未定） ・ 東京五輪開催

国道40号からのアクセスを重視し、市街地から若干離れた国道沿いを候補地とする。

<マチソト立地に対する考え方>

車での移動をメインとした周辺観光地・まちなかへの誘導を重視。ドライブでの周遊観光を誘導する。また、川との連携など、「アウトドア」との連携を強化。（天塩川・旧天塩川へのカヌーポート設置等）





求められる機能（案）

項目	機能・内容（WS意見含む）	優先度	備考
基本機能	駐車場	◎	キャンピングカーなども利用できるものが望ましい
	トイレ	◎	24時管理利用できるもの
	情報提供施設（コーナー）	◎	最低限はパンフレットコーナー
	休憩施設	◎	
	地域振興施設	◎	具体的な内容は、以下の項目で充当
地域意見	観光案内所（窓口）	○	宗谷のゲートウェイとしては、宗谷地域の情報も必要。観光協会の設立も検討。
	町民交流機能（コミュニティスペース等）	△	市街地から遠いため、町民が利用しにくいことが想定される。
	地域産品直売	○	生鮮品やお土産等の販売。幌延の特産品は少ないため、宗谷のゲートウェイとしては、宗谷地域の特産品取扱も要検討。
	オートキャンプ	△	町内のキャンプ場との住み分けを検討。例えば、キャンピングカーに限る等。
	レストラン・軽食	○	最近では運転中に片手で食べられる軽食が多い。幌延・宗谷らしさが感じられるグルメ開発が必要。レストランは町中の飲食店・トナカイ観光牧場のレストランへ誘導。町民利用を考えると、カフェ等も検討。
	イベントスペース	○	何にでも利用できる空間を確保。
凡例：道の駅として必要な機能◎／観光・防災拠点として求められる機能○／その他検討が必要な機能△／不要な機能×			立地によって検討。カヌーの貸出など、コンテンツとの組み合わせが必要。

■ 2016年道内「道の駅」利用者数ランキング

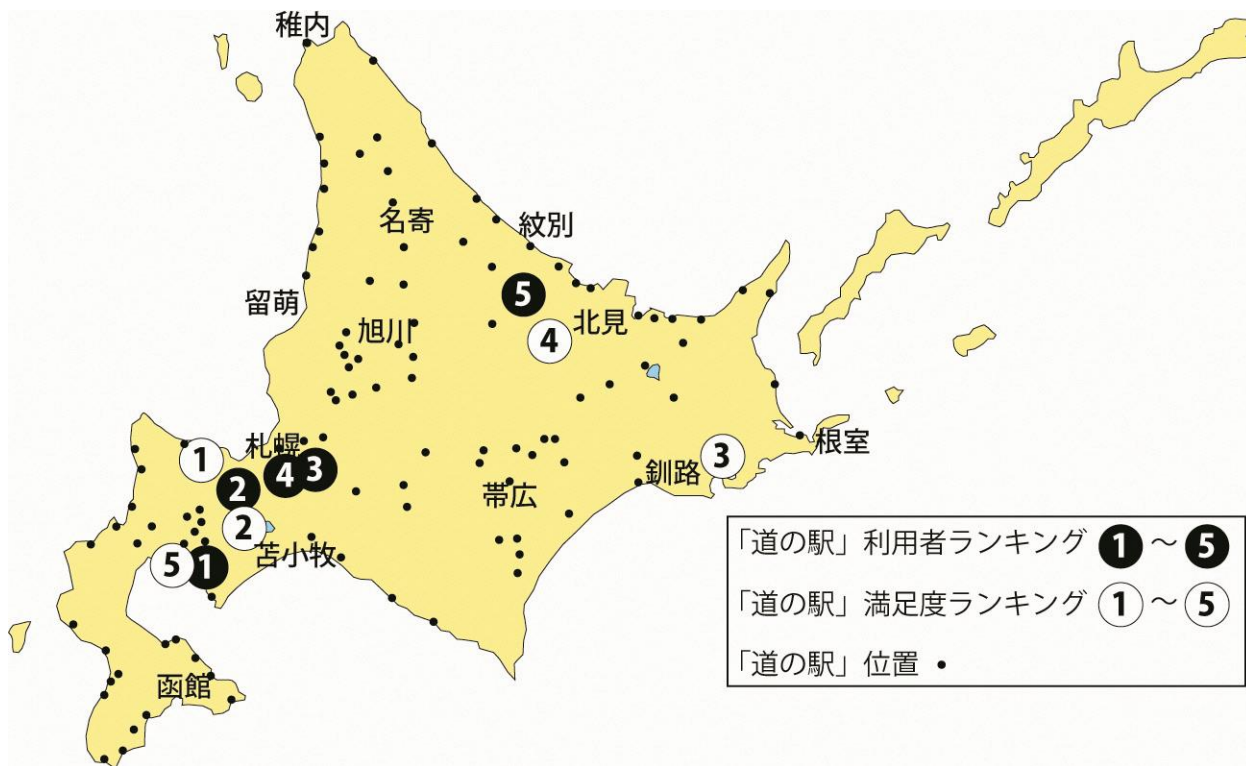
順位	名称	市町村名	利用者数
1	だて歴史の杜	伊達市	140万人
2	望洋中山	喜茂別町	112万人
3	マオイの丘公園	長沼町	107万人
4	花ロードえにわ	恵庭市	104万人
5	まるせっぷ	遠軽町	97万人

北海道地区「道の駅」連絡会調べ

■ 2016年「道の駅」満足度アンケートランキング

順位	名称	市町村名
1	道の駅あかいがわ	赤井川村
2	道の駅 フォレスト276大滝	大滝村
3	道の駅厚岸グルメパーク	厚岸町
4	道の駅おんねゆ温泉	北見市
5	道の駅とよら	豊浦町

じゃらん調べ



■道内「道の駅」設計会社一覧

	名 称	市町村	設 計 会 社	施 設
1	北欧の風 道の駅とうべつ	当別町	ドーコン・安藤設計JV	24時間トイレ、レストラン、農産物直売所、交流広場、休憩コーナーほか
2	あったか・あいろーど(厚田)	石狩市	不明	24時間トイレ地域観光コーナー、特産品販売スペース、休憩スペース、バス待合スペース
3	黒松内トワ・ヴェール	黒松内町	アトリエアク	パン工房、ベーカリーレストラン、特産品等展示・販売コーナー
4	ニセコビュープラザ	ニセコ町	アトリエアク	情報プラザ棟、トイレ棟、フリースペース棟、インフォメーションコーナー(情報プラザ)
5	だて歴史の杜	伊達市	アトリエアク	24時間トイレ、伊達市観光物産館、宮尾登美子文学記念館、藍工房刀鍛冶工房
6	七飯町道の駅	七飯町	ドーコン	24時間トイレ、情報・休憩ゾーン、飲食コーナー、地場産品販売コーナー、農産物直売所
7	道の駅しんしのつ	新篠津村	北海道日建設計	トイレ、レストラン、特産品販売コーナー、温泉「たつぷの湯」、「産直市場」
8	あしよる銀河ホール21	足寄町	岡田設計	トイレ、ショップ&ベーカリー、松山千春ギャラリー、多目的観光施設、レストラン
9	花ロードえにわ	恵庭市	ドーコン	休憩・飲食コーナー、情報コーナー、地場産品販売コーナー、コンサバトリー、電気自動車用急速充電設備
10	しゃり	斜里町	ドーコン	インターネットコーナー、まちなか情報コーナー、ねぶた山車展示、コミュニティルーム
11	ライスランドふかがわ	深川市	ドーコン	精米体験コーナー、お米クイズ・ゲームコーナー、総合案内、特産品販売コーナー、農産物直売所
12	サーモンパーク千歳	千歳市	ドーコン	トイレ、サケのふるさと 千歳水族館、電気自動車用急速充電設備、レストラン、無料休憩所
13	絵本の里けんぶち	剣淵町	ドーコン	農産物直売所、地場産レストラン、テイクアウトコーナー、食べものと絵本のコーナー、パンの販売
14	なかがわ	中川町	ドーコン	休憩コーナー、テイクアウトコーナー、地場産品コーナー、レストラン、トイレ
15	田園の里うりゆう	雨竜町	ドーコン	トイレ、特産品直売施設、雨竜沼自然館、テイクアウトコーナー、軽食コーナー(あいす館)
16	とよら	豊浦町	ドーコン	テイクアウトコーナー、物産直売コーナー、内藤大助コーナー、トイレ
17	いわない	岩内町	ドーコン	観光案内所、特産品展示コーナー、いわないマリンパーク、トイレ
18	赤井川	赤井川村	ドーコン	ベーカリー・アイスクリームコーナー、農産物直売所、テイクアウトコーナー、村のアルバム、トイレ
19	ハウスヤルビ奈井江	奈井江町	ドーコン	喫茶、イベントテラス、トイレ
20	そうべつ情報館i	壮瞥町	ドーコン	休憩コーナー、多目的広場、農産物直売所、トイレ、「火山防災学び館」
21	オスコイ!かもえない	神恵内村	ドーコン	特産品販売、トイレ
22	ほっと♡はぼろ	羽幌市	ドーコン	24時間トイレ、物産店、レストラン、展望ラウンジ、はぼろバラ園、はぼろ温泉大浴場、客室
23	もち米の里☆なよろ	名寄市	ドーコン	24時間トイレ、休憩・情報コーナー、レストラン、テイクアウトコーナー、特産品販売コーナー、地域FM
24	道の駅「あぶた」	洞爺湖町	日本工房	物産直売コーナー、物産品販売コーナー、アイスクリーム販売コーナー、休憩コーナー、うに丼コーナー

各社公式HP,各市町村HP調べ

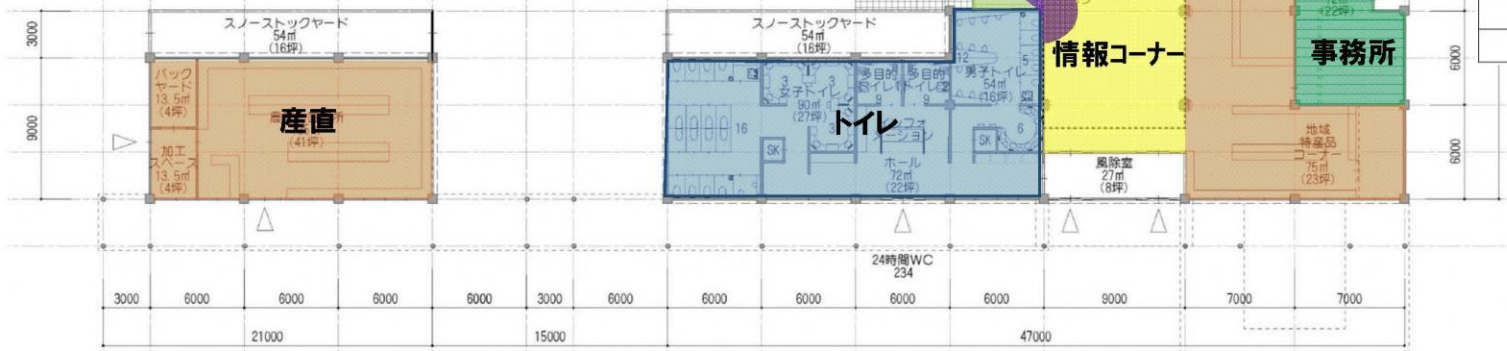
北欧の風 道の駅とうべつ平面図

規模：約 1,250 m²

内観イメージ



外観イメージ

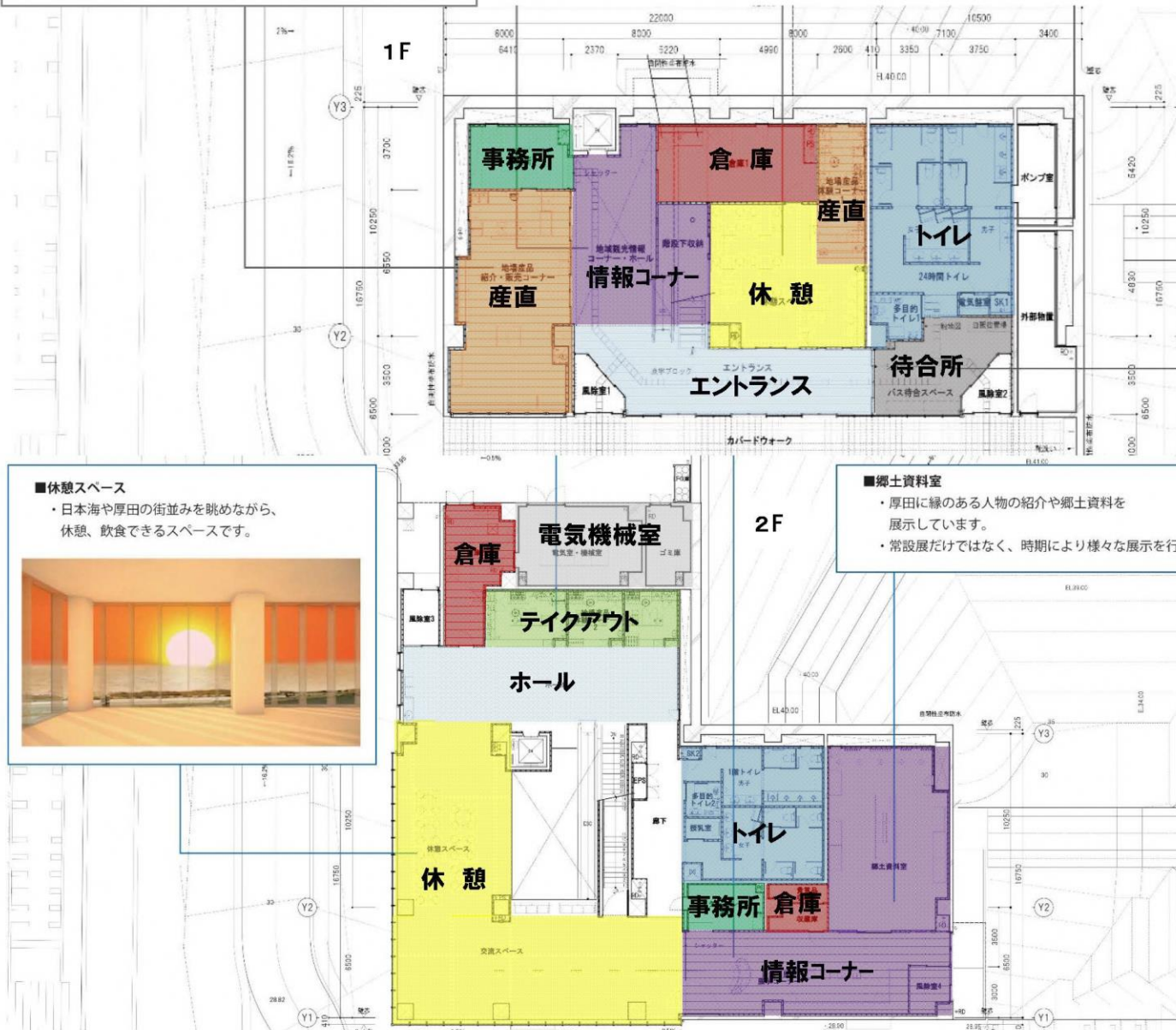


項目	施設規模
①24時間トイレ	162 m ²
②情報コーナー	82 m ²
③アトリウム・ 無料休憩コーナー	400 m ²
④飲食コーナー	144 m ²
⑤テイクアウト	54 m ²
⑥地域特産品コーナー	75 m ²
⑦プロショップ	182 m ²
⑧事務所他	72 m ²
⑨通路等	79 m ²
道の駅本体小計	1,250 m ²
⑩農産物直売所	162 m ²
⑪柵木	144 m ²
⑫車イス駐車场上屋	138 m ²
⑬パーベキューバーゴラ	108 m ²
⑭ステージ	50 m ²
⑮ビニールハウス	200 m ²
建築施設小計	802 m ²
⑯イベントスペース (イベント広場・交流広場)	3,000 m ²
⑰フラワーガーデン	660 m ²
⑱都市農村交流スペース (ビニールハウス・体験農場等)	625 m ²
⑲道の広場	690 m ²
その他	3,932 m ²
外構小計	8,907 m ²
合計	10,959 m ²

あったか・あいろーど厚田 道の駅平面図

※平成 30 年春オープン予定

規模：約 1,333 ㎡



展示スペースイメージ



ホール・物産品イメージ



外観イメージ



■休憩スペース

- ・日本海や厚田の街並みを眺めながら、休憩、飲食できるスペースです。



■郷土資料室

- ・厚田に縁のある人物の紹介や郷土資料を展示しています。
- ・常設展だけではなく、時期により様々な展示を行います。

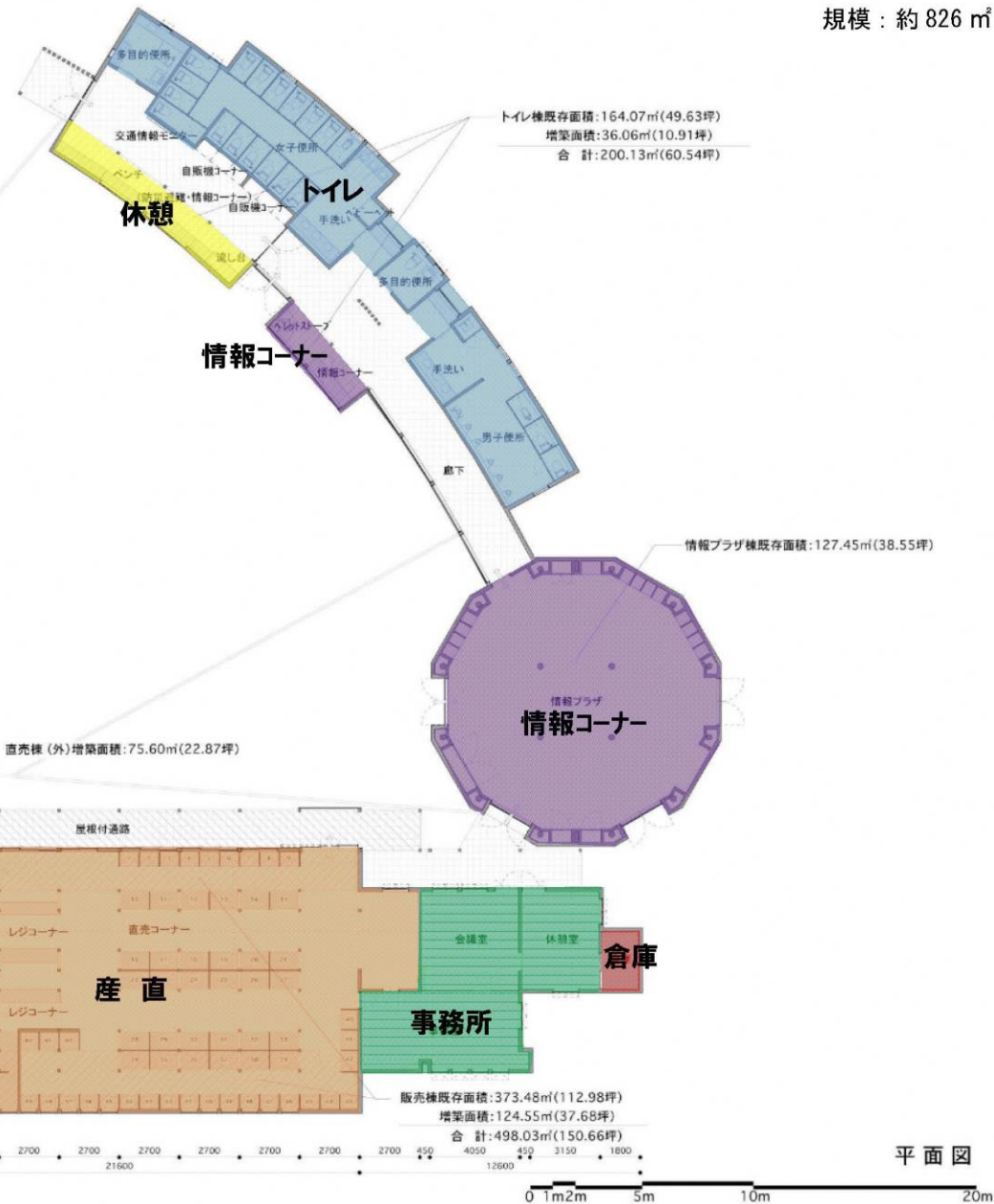
ニセコビュープラザ平面図（改修計画案）

規模：約 826 m²

外観写真



直売所写真



2. 検討ワークショップの目的【再掲】



拠点のアイデアについて検討

平成28年度に3回のワークショップを開催

まちの拠点というテーマで、検討ワークショップを開催し、幌延町地域振興（観光）計画を策定し、拠点の大きな方向性を示した。

本日

整備に向けて具体的な姿を検討

平成30年1月25日（木）

地域振興（観光）計画に基づき、拠点（道の駅構想）の整備に向け、具体的なあるべき姿を、町民を含め広く検討するため、ワークショップを開催。

<目的>

地域振興（観光）計画や求められる機能（案）に基づき、拠点が担うべき機能や役割に必要な姿を考える。

- ①町民や多様な旅行者が集う拠点
- ②地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点
- ③道や川など多様な移動手段の拠点

アクションプランに反映

各種取り組みや調査、検討ワークショップの結果を踏まえ、「幌延町地域振興（観光）計画アクションプラン」を策定する。

3. ワークショップの流れ



所要時間	項目	内容
19:05 ～ 19:20	1.今年度の取り組みやワークショップ流れ等の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・幌延町地域振興（観光）計画今年度の取組みについて ・「拠点づくり」に関するワークショップについて ・幌延町の拠点構想について
19:20 ～ 20:00	2.グループ討議	<p style="text-align: center;">～ワークショップの進め方～</p> <p>①グループごとに自己紹介【2分】 →初対面の方もいるかもしれませんので、自己紹介をお願いします。</p> <p>②「発表役」を決める【3分】 →テーブルからの全体発表を行う発表者を選出して下さい。</p> <p>③3つの戦略や求められる機能を踏まえ、幌延町らしい拠点をイメージして“必要な機能”や“具体的なサービス”をそれぞれ考え付箋に書き、模造紙に貼ってください。【30分】 →模造紙のそれぞれ貼ってもらい、それぞれの付箋の内容についてお話し頂き、グルーピングする。</p> <p>⑤テーブル検討結果のまとめ【5分】 →テーブルの検討結果について整理し、発表者及びテーブルメンバーを確認します。</p>



4. 検討ワークショップとは



○ ワークショップとは

- 『ワークショップ』とは、あるテーマについて、多くの人たちの意見を出し合う、市民参加型の会議手法です。
- できるだけ多くの参加者から、いろいろな視点での意見をもらうことを狙いとしています。（グループに分かれる理由）

★5～6名程度の少人数のグループに分かれ、グループごとに議題について意見やアイデアなどを出し合います。

★グループ討議では、リーダー・進行役が中心となり議論を進め、出された意見やアイデアなどを取りまとめます。

★出された意見は、それぞれ付箋などに記録し、項目やテーマなどに分類しながらまとめます。

★グループ討議終了後、各グループでの意見について、全体で共有するため、グループごとに発表をします。

★最後に各グループでの意見を全体で取りまとめ整理します。



5. ワークショップの注意点



○ワークショップ3つのルール（注意点）

自分の意見は
手短かに話しましょう

少数で議論しているとはいえ、できるだけ多くの意見を出し合い、共有するために、できるだけ手短かに話をしましょう。

他の人の意見は
しっかり聞きましょう

議論を深め、様々な視点からより良い話し合いとするため、他の人の意見をしっかりと聞きましょう

他の人の意見を否定し
ないようにしましょう

一見違うように思える意見も発展させたり、背景や理由を考えたりすると意外に共通点があったりします。他の意見はむしろ発展させたり、相乗りして、より良いアイデアに発展させましょう。

6. 検討テーマのまとめ

以下の戦略や求められる機能を踏まえ、幌延町らしい拠点をイメージして“必要な機能”や“具体的なサービス”を考えましょう。

戦略8-1 町民や多様な旅行者が集う拠点

町民も集い、旅行者と町民、町民同士の交流の場となる拠点

戦略8-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点

幌延町を広く紹介するインフォメーション機能の他、地域の特産品を紹介・販売し、まちのブランドを高め、まちの活性化に繋がる拠点

戦略8-3 道や川など多様な移動手段の拠点

幌延市街地や宗谷地域へと繋ぐ要処となる「道」と「川」を活用した複合的な拠点。また、防災拠点としての機能、広域連携についても模索

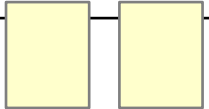
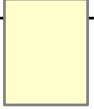
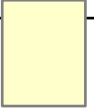
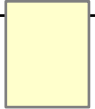

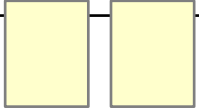

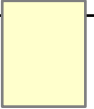
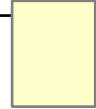

幌延町らしい拠点の、、、

必要な機能

具体的なサービス

考えられる課題

6. 検討テーマのまとめ

目指す姿	必要な機能	具体的なサービス	考えられる課題	その他
戦略8-1 町民や多様な旅行者が集う拠点				
戦略8-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点	 	 		
戦略8-3 道や川など多様な移動手段の拠点				
その他				

3つの戦略や求められる機能を踏まえ、幌延町らしい拠点をイメージして“必要な機能”や“具体的なサービス”をそれぞれ考え付箋に書き、模造紙に貼ってください。